



謹賀新年

ご購入ありがとうございます。Space Japan Review 誌編集委員長の若菜弘充です。本誌も44号を数えることになりました。ひとえに読者の皆様のご支援と編集委員の方々のご協力によるものと感謝いたしております。今年もよりいっそう魅力のある雑誌にしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。本誌は和文と英文で発行しておりますが、どうしても英文翻訳の困難さから英文記事が発

行できないことも多々あります。今年は翻訳ソフトウェアも利用して英文化を積極的に進めていきたいと考えています。引き続きご購入をお願いするとともに、本誌をご存じない方にもお伝えいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

編集委員長 若菜弘充

明けましておめでとうございます。本 AIAA-JFSC が発足して以来今年は8年目を迎えようとしております。この間、最初の1年半は毎月、それ以降隔月に本 Space Japan Review を発行して参りました。これも皆様のご協力の賜物と感謝致しております。編集委員会は毎月開催しており、この Space Japan Review を有意義なものとするため、熱心に議論しておりますが、今後も一層有意義なものとしていき所存でございますので、引き続きご支援をよろしくお願い致します。

編集顧問 飯田尚志

明けましておめでとうございます。

昨年は、日本の基幹ロケットである H-IIa が MTSAT の打ち上げに成功し、また、宇宙通信関係でも、「きらり」がロシアのロケットで打ち上げられ、ヨーロッパの ARTEMIS との間で世界初めての双方向光衛星間通信実験を成功させるなど明るい話題が多くありました。e-ジャパン政策から、u-ジャパン政策へと通信ネットワークの重要性が高まる中、広域性、耐災害性という特質をもった衛星通信技術は、いつでも、どこでもというユビキタスネットワーク社会に向けた要求と国民の安全と安心の確保という課題を解決する重要な手段であると思っております。今年もまた、宇宙開発利用のための多くの R&D イベントが控えていますが、昨年の実績を踏まえ、ますます日本の宇宙開発が活発化されることを期待しています。

編集顧問、JFSC 事務局長 鈴木良昭

本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は漸く H-IIA ロケットが無事戦列に復帰し、「縮み指向」に陥っていたような我が国の宇宙開発

が、今年から再び本来の目標に向かって前進してゆくことが大きく期待されます。ただ、過去何年間のつらい体験に基づいて、信頼性保証・品質保証の面で「今度は大丈夫」と、発注者側・メーカー側双方の担当者レベルの方々が実感できるまでの改善が本当に行われてきたことを、今後の打ち上げなどの節目節目にあたって、綿密に点検することが必要ではないでしょうか。これは、一昨年から昨年にかけて米国製衛星の大きな事故に泣かされた、我が国の衛星オペレータについても同様と思います。「日本の宇宙システムは信頼度が高く成功への近道」と世界から評価される実績を、ぜひ目指して行きたいものです。

編集特別顧問 植田剛夫

新年明けましておめでとうございます。日頃 SJR のご愛読ありがとうございます。昨年も世界的レベルにて自然・人災を問わず災害の多発した年として、安全・安心が叫ばれました。一方日本経済は漸く立ち直りの兆候が現れ株式市場がそれにいち早く反応しております。

宇宙開発の分野でも新年早々ALOS の打ち上げ、引き続き MTSAT の打ち上げと漸く回復の兆しが見えはじめました、JAXA の開発は安全・安心への貢献から観測分野に重点が置かれるやに見えますが、観測衛星には当然ながらその取得データの伝送と複雑な衛星観測作動の上から、衛星通信技術の貢献が多いに必要であることは言を待ちません、その観点からも新たな高度衛星通信技術の開発の必要性が高まっていると感じています。今年も SJR の活動にご期待ください。

編集特別顧問 北爪 進

読者の皆様、明けましておめでとうございます。99年の創刊号から7年間、世界のニュースをご紹介します。この間、衛星企業もM&Aを繰り返し、激動の時代を乗り越え、様変わりをしており、目が離せなくなっています。今後も最新の記事をご紹介しますのでご声援宜しく願いいたします。

編集委員 小淵知己

本年もよろしく願い申し上げます。今年は昨年にもまして「スペース・ジャパン・レビュー」誌の記事を充実したものにしていきたいと思っております。本業界の動きなどが分かりやすい形で記事にできればと思います。読者諸氏のご協力をお願いいたします。本年も皆様にとりよい年でありますように祈っております。

編集委員 志垣雅文

新年明けましておめでとうございます。

昨年、日本の宇宙産業の主要な出来事としては H-IIA 6 号機による MTSAT-1R の打ち上げ成功で始まりました。その後、X 線天文衛星“すざく”、光衛星間通信実験衛星“きらり”がそれぞれ 7 月と 8 月に打ち上げられ、現在それらのミッションも順調に達成されています。さらには惑星探査衛星“はやぶさ”が小惑星“イトカワ”へ到着し着陸したことは、大衆的な話題となりました。特に“きらり”と“はやぶさ”の成功は世界に対し日本が最先端の宇宙技術を有していることを示しました。今年も多くの衛星打ち上げが計画されていますが、さらなる宇宙産業活性化のため、これらの打ち上げが全て成功することを皆さんと共に祈りたいと思います。

編集委員 山口 進

新年あけましておめでとうございます。本年は日本において、従来になく多くの衛星の打ち上げが予定されており、通信衛星関係でも技術試験衛星 VIII 型の打ち上げが予定されております。Space Japan Review においては、これら各種衛星の情報を提供するとともに、衛星通信の新たな展開に向

けて有意義な情報を提供できるよう活動したく思っております。

編集委員 上羽 正純

新年明けましておめでとうございます。

今年は複数の国産衛星の打上が予定されており、新しい年は宇宙開発分野での明るい話題が期待されます。Space Japan Review 誌では衛星通信・放送分野のホットなニュースや話題をタイムリーに紹介できるよう頑張ります。

今年もよろしくお願い申し上げます。

編集委員 今井一夫

明けましておめでとうございます。

昨年末より、この編集委員を引き継ぎました。衛星通信・放送分野の新技术やビジネス情報をお届けできればと、微力ながら努力してまいります。

編集委員 西宮努